

弘前大学教育学部研究紀要

ク ロ ス ロ ー ド

第 24 号(通巻第64号)

CROSSROADS

Journal for Educational Research
Published by the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 24 (Old Series 64)

March 2020

2020年3月

弘前大学教育学部

Hirosaki, Japan

目 次

研究論文

- 「一次関数とみる」ことの困難性の解消を志向した
授業構成とその実践 葛 原 秀 人, 他 (1)
- 光についての学びを深めるための授業実践
—「偏光」を通して光が波であることにふれさせる— 岩 崎 和 弘, 他 (11)
- 弘前市内の小学生を対象とした実験教室の実践報告 杉 江 瞬, 他 (19)
- 幼小接続期における自然との触れ合いと表現の芽生え
—幼稚園年長児に対する植物仮装の実践から— 富 田 晃, 他 (25)
- 共同制作活動がもたらす美術科の学びについての一考察 蒔 苗 靖 子 (33)
- 技術科計測・制御学習におけるシステム的な思考を支援する
モジュールシステム教材の開発 湯 田 絵美子, 他 (45)
- 健康課題を自分事として捉えて行動変容を促す生活習慣病予防教育 (第2報)
—子どもの自己評価と保護者の観察項目からみた
生活習慣病予防教育のあり方— 左 川 佳 子, 他 (55)
- 弘前大学教育学部附属学校園の暑熱環境と
熱中症の発生に関する実態調査 森 菜穂子, 他 (67)
- 弘前大学教育学部附属学校園における熱中症予防のための
暑さ指数モニタリングシステムの活用と
校種別ガイドラインの提案 大 高 景 子, 他 (79)
- 知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害等を併せ有する重複障害児の
音楽を聴く活動による表出行動の読み取りに関する検討
—行動指標と心拍変動による解釈を通して— 佐 藤 千佳子, 他 (89)
- 作業学習「接客」における知的障害生徒の活発な話し合いをめざした
教師の働きかけに関する実践的研究 棚 内 伸 子, 他 (97)
- 資質・能力ベースのカリキュラムの構築過程に関する考察
—高等学校における実践を踏まえて— 大 瀬 幸 治, 他 (107)

講演記録

- 三つの柱と授業の評価 授業中の子どもの評価 中 村 光 一 (117)

記 録

- 教育実践協同研究推進委員会活動記録 (137)
- 弘前大学教育学部附属4校園の全体研究テーマの設定について (139)
- 研究会活動記録 (144)
- 実践協同研究通信 (148)

弘前大学教育学部研究紀要クロスロード刊行および投稿規定について

弘前大学教育学部教育実践協同研究推進委員会

投 稿 規 定

1. 本誌には教育実践に関する研究論文並びに報告、紹介などを掲載する。
2. 発行は原則として毎年3月の年1回とし、A4判約150ページとする。
3. 原稿募集の時期は10月とし、締め切りは概ね1月末とする。
4. 論文の著者には本学部または附属学校園の教員が含まれていなければならない。
5. 原稿は、別に定める執筆要領に従って作成するものとする。
6. 論文等は、原則として、図表（写真、楽譜などを含む）を含めて、1編につき刷り上がりで10ページ以内とする。
7. 掲載順序など編集に関することは、本委員会が決定する。なお、論文等に関して疑義などが生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば著者に修正を求めることがある。
8. 校正は原則として著者が行い、3校までとする。校正は印刷上の誤りの訂正のみとし、文章や図表の差し換え、追加などは認めない。
9. 超過ページ、カラー図表などの印刷について、特に費用を要するものはその著者の負担とすることがある。
10. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とする。
11. 別刷を希望する場合は投稿の際に必要な部数を申し出る。料金は別に定め、経費は著者が負担する。
12. 以上の年1回の定期発刊の他、特集号を発行することがある。特集号は、拡大編集委員会を組織し、企画および編集にあたるものとする。
この規定は、平成25年10月1日から施行する。

執 筆 要 領

1. 提出原稿には、表紙、要旨、本文及び引用・参考文献が揃っていないといけない。
2. 表紙には、論文等の表題、著者名及び所属を和英両語で記載する。なお、英語にかえて、他の汎用性の高い言語で記載してもよい。
3. 要旨は本文の前に入れ、和文の場合は400字以内、欧文の場合は120語以内とする。
4. 原稿は、原則として、A4判の縦置き横書きとし、ワープロを使用して作成する。和文の場合は文字10.5ポイント、1ページあたり48字46行、上下、左右の余白は20mmとする。欧文の場合も1ページ46行を原則とする。原稿は印字した原稿と本文、図表の電子ファイル入りのCD-ROMなどのメディアを提出し、著者名、使用機種、使用ソフトを明記する。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、打点部分、下線、傍線など）は、原稿内に朱書きする。
6. 文献の引用は、原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付き番号をつけて表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の表題、雑誌名、巻号、ページ、発行年を、単行本の場合は著者名、書名、出版社、ページ、発行年を記載する。
7. 図表（写真、楽譜などを含む）は、なるべく少数にとどめ、大きくても1ページに収まる程度のものとし、原則として1つずつA4判程度の白色台紙にはる。なお、図表の表題等は台紙の端に鉛筆で記入し、必要に応じて縮小率等も指定する。組版を要する図表も、原則として1つずつA4判程度の用紙にかく。なお、ワープロなどで図表を作成する場合には、印刷字のレイアウトを想定して挿入スペースを確保し印字する。
8. 図や楽譜は直ちに製版できるように黒色のインク等で明瞭にかき、図中に文字などを写植する必要がある場合には、該当箇所に鉛筆で記入する。
9. 図表は一括して原稿の末尾に添え、挿入箇所は本文の欄外などに朱書きし指定すること。
10. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

編集

教育実践協同研究推進委員会

広報・情報発信班

田中 拓郎（教育学部） 代表

松山 祐子（附属幼稚園）

菊地 和恵（附属小学校）

藤元 公徳（附属中学校）

加賀谷 紀（附属特別支援学校）

弘前大学教育学部研究紀要

ク ロ ス ロ ー ド

第 24 号（通巻第64号）

（2020年 3 月）

令和 2 年 3 月16日印刷

令和 2 年 3 月23日発行

編集兼発行者

弘 前 大 学 教 育 学 部

弘前市文京町1番地

電話（0172）36-2111(代)

印刷所 **やまと印刷株式会社**

弘前市神田4丁目4の5

電話（0172）34-4111

CONTENTS

PAPERS

- Lesson Composition and Practice for Eliminating
the Difficulty of "Recognizing Linear Functions" Hidehito KUZUHARA et al (1)
- Class Practice for Deeper Learning in Light:
Learning Waviness of the Light through Polarization Kazuhiro IWASAKI et al (11)
- Practice Report of the Science Experimental Lectures
for Elementary School Students in Hirosaki City Shun SUGIE et al (19)
- Contact with Nature and the Beginning of Art Expression
in Conjunctive Period Between Preschool and Elementary School
—Plant Costume Practice for Kindergarten Final Year— Akira TOMITA et al (25)
- A Study of Learning in Art Classes through
Group Work Activities Yasuko MAKANAE (33)
- Development of module system teaching materials
to support systematic thinking in measurement
and control learning Emiko YUDA et al (45)
- Ideas for Health Education for Prevention of Lifestyle Diseases
Promoting Changes in Behavior by Considering Health
Issues as Self (2nd Report)
Through the Progress of Children's self-evaluation
and Parental observation Yoshiko SAGAWA et al (55)
- Survey of The Occurrence of Heat Illness and The Heat Environment
of The Attached Schools of Faculty of Education,
Hirosaki University Naoko MORI et al (67)
- Effective Use of The WBGT Monitoring System and Proposal
of New Guidelines for Prevention of Heat Illness in The Attached
Schools of Faculty of Education, Hirosaki University Keiko OTAKA et al (79)
- A Study on Reading Expression Behavior through Listening
to Music of A Child with Severe and Multiple Disabilities:
Interpretation by Behavior Evaluation
and Change of Heart Rate Chikako SATO et al (89)
- Practical study of teachers' instructions for positive interaction
between students with intellectual disabilities on group discussion
in on-the-job training "hospitality" Nobuko TOCHINAI et al (97)
- Consideration of The Process of Developing Competency-based Curriculum
: Based on practice in High Schools Yukiharu OHSE et al (107)

RECORDS

..... (117)